■ 試験研究課題 事前評価結果(令和7年度開始課題)

判定基準 A:実施妥当、B:内容に改善が必要、C:実施不適当

機関名:上場営農センター

課題名	研究目的・目標	期待される成果	研究 期間	総合 判定
佐賀 i9号(いちごさん) の高単価期の 11月~2 月における収量向上技 術の確立		 花芽分化の一斉化により定植適期が揃い、定植後の生育のばらつきが軽減する。 収量・品質が向上することで、経営が安定し、新規参入や規模拡大等、産地の発展につながる。 商品果率が向上することで、産出額の増加につながる。 	令和 7 ~ 10 年度	A
上場地域における焼酎 原料用カンショの安定 生産のための技術確立	カンショの安定生産及び産地化を図るため、上場地域に適した焼酎原料用カンショの栽培技術等を確立する。 ・ 焼酎用カンショの単収 5.0 t/10 a ・ 栽培技術マニュアルの作成	・ 栽培技術及び防除技術を確立することで、安定多収生産につながる。・ 省力化技術を確立することで、栽培面積が拡大し、焼酎原料用カンショの産地化につながる。	令和 7 ~ 9 年度	A

機関名:農業試験研究センター

課題名	研究目的・目標	期待される成果	研究 期間	総合 判定
キュウリの根域制限栽培による高収量安定生産技術の確立	キュウリにおける防根透水シートを活用した隔離 養液土耕栽培の高収量安定生産技術を確立する。 ・ 商品化収量 35t/10t ・ 収穫期間延長 +20 日 ・ 根域制限栽培マニュアルの作成	 生育に応じた栽培管理なおかつ土壌病害の影響を受けずに長期の高収量安定生産が可能となる。 県で開発・実証中の営農支援システムとのデータ連携により、産地全体の栽培技術の向上及び高収量生産が可能となる。 収量向上及び収穫期間延長により、経営が安定し、新規参入や規模拡大等、産地の発展につながる。 	令和 7 ~ 9 年度	A
適正規格の高品質タマネギを毎年安定生産するための球肥大コントロール技術の確立	生育期間中に鱗茎肥大を調整する技術を確立する。 ・ 適正規格(L 規格)割 80%	・ 適性規格のタマネギの安定生産により、収益増加につながる。・ 適正規格かつ腐敗が少ないタマネギの安定供給が可能となり、市場評価が高まる。また、産出額の増加(+5億円)につながる。	令和 7 ~ 10 年度	A
佐賀県の基幹作物タマネギの生産拡大を可能とする新たな病害虫防除技術の確立	ドローンを用いた省力防除技術や基幹防除薬剤に 代わる防除技術等のタマネギ病害虫の新たな防除 技術を開発する。 ・ ドローンを用いた防除により、乗用管理機と比 較して防除作業時間を約3分の1に短縮	近年問題となっている病害虫被害が軽減され、 所得向上につながる。タマネギベと病の防除の省力化により、栽培面 積が拡大する。	令和 7 ~ 10 度	A

課題名	研究目的・目標	期待される成果	研究 期間	総合判定
中山間地域におけるホウレンソウ農家の所得向上につながる生産技術の開発	ホウレンソウの高収量生産技術や小型簡易ハウスによる生産技術を開発する。 年間反収5t 夏まき1作あたりの反収1t 小型簡易ハウスにおける栽培体系の提示	 高収量生産技術の確立により、年間を通してホウレンソウの販売数量が増加し、所得の向上につながる。 夏季高温期の出荷数量が増加することで、高単価時期における市場への安定供給が可能となることから、さらなる所得の向上につながる。 小型簡易ハウスにおける栽培技術の確立により、初期費用が軽減され、新規参入や規模拡大につながる。 	令和 7 ~ 9 年度	A
サトイモにおける親芋 を活用した育苗技術の 開発と連作障害回避の ための輪作体系の確立	親芋を有効活用した新たな育苗技術と連作障害回避のための輪作体系を確立する。 ・ 親芋の長期貯蔵法及び128 穴セルトレイでの育苗技術の確立 ・ サトイモと水稲の効果的輪作体系による連作障害回避技術の開発	サトイモ栽培に取り組む農家が増え、産地が 再形成される。サトイモの連作による減収を回避でき、所得 の向上につながる。	令和 7 ~ 10 年度	A
タマネギ栽培のさらな る規模拡大を可能とす る新技術の開発	秋播きタマネギの機械化体系に適した高品質生産技術を確立する。また、冬どりタマネギの低コスト栽培技術を開発する。機械化体系に適した早生品種の選定冬どりタマネギの低コスト栽培技術の確立	鉄コンでの機械化一貫体系がさらに普及し、 タマネギの栽培面積が拡大する。冬どりタマネギの栽培面積が拡大し、産出額 の増加につながる。	令和 7 ~ 10 年度	A

収益性が高い有望な露 地野菜の作期拡大及び 安定生産技術の開発	平坦重粘土地帯におけるカンショ及びカボチャの 栽培技術を確立する。また、新たな作型でのブロッコリーの栽培技術を確立する。 ・ 重粘土地帯におけるカンショ及びトンネル栽培カボチャの栽培技術の確立 ・ ブロッコリーの新たな作型における安定生産技術の確立	重粘土地帯における焼酎用カンショやトンネル栽培カボチャ等、特色ある新規品目の栽培技術が確立し、新たな産地が形成される。 ブロッコリーの栽培面積拡大により、産出額の増加につながる。	令和 7 ~ 9 年度	A
佐賀水田農業を安定に導く水稲品種の育成	省力・低コスト生産が可能な高品質・良食味うるち品種及び醸造適性の高い酒米品種を育成する。 ・ 水稲後作に露地野菜の作付が可能かつ中山間地域にも適する極早生品種の育成・ポスト「夢しずく」早生品種の育成・トビイロウンカに強い「さがびより」の同質遺伝子系統の作出・酸造適性に優れた酒米品種育成・普及	地としての信頼が確保される。 防除回数の削減や低コスト生産が可能となり、農地集約に寄与する。	令和 7 ~ 11 年度	A
水田有機大豆作における機械除草適期診断ア プリの導入による省力 除草と安定生産技術	有機栽培で使用可能な BT 剤を用いた大豆害虫の新たな防除技術の開発を目指す。 ・ 労働時間の 28.8%を削減 ・ 大豆の有機栽培における病害虫・雑草抑制技術の確立	大豆の有機栽培の阻害要因となっている除草 作業の省力化や病害虫回避技術を確立でき、 将来的な面積拡大につながる。 「みどりの食料システム戦略」推進に寄与す る。	令和 7 ~ 8 年度	A

機関名:茶業試験場

課題名	研究目的・目標	期待される成果	研究	総合
H/K/AZI* H	WINDHIA H W	79114 C 4 0 0 7942 K	期間	判定
輸出拡大のための碾茶等	高品質で燃料コスト(CO2発生量)と機械導入コ	・ 需要が高まっている碾茶及びモガ茶の生産拡大		
製造技術の開発	ストを削減できる碾茶製造技術を開発する。ま	により、国内外への販路拡大が図られ、中長期		
	た、既存の蒸し製玉緑茶ラインをフル活用したモ	的な所得向上と茶業経営の安定につながる。		
	ガ茶製造技術を開発する。	・ 乾燥効率の向上により、燃料コストの低減が	令和7	
	・ 既存の輸出品と同等以上に色相確度が高い釜	図られる。また、CO2発生量の削減により持続	\sim	A
	炒り碾茶の開発	性の高い茶業の実現に近づくとともに、環境	11 年度	
	・ 一般的な碾茶製造ラインと比較して、CO ₂ 発	負荷低減を打ち出した独自性のある商品を創		
	生量を 50%以下に削減	出できる。		
	・ 碾茶及びモガ茶製造マニュアルの作成			

機関名:畜産試験場

課題名	研究目的・目標	期待される成果	研究 期間	総合 判定
豚受精卵移植における 受胎成績向上対策	生産現場での受精卵移植における受胎率を向上させるための手段を確立する。 ・ 非外科的手法による受精卵移植における受胎率50%、産子数6頭以上	受精卵移植による受胎性が向上することで、 疾病侵入リスクのある生体導入に代わる自農 場での種豚生産が生産現場でも可能になる。衛生面に配慮しながら種豚改良が促進され、 種豚導入経費の低減につながる。	令和 7 ~ 9 年度	A

機関名:玄海水産振興センター

課題名	研究目的・目標	期待される成果	研究 期間	総合 判定
海水温上昇に対応した 藻場保全技術高度化試 験	藻場の正確な実態把握・藻場モニタリングおよび 高水温耐性の高い海藻種の増殖技術の獲得に取り 組む。 ・ ウニ駆除実施地区の海域特性に適した核藻場 保全技術の開発 ・ 高水温耐性の高い海藻の増殖技術の開発	・ 藻場の保全・回復が図られるとともに、ウニ・アワビなどの磯根資源の状況も良好に保つことにつながる。	令和 7 ~ 9 年度	A
気候変動に対応した漁業改善実証事業	漁業を継続していくためにも、スマート事業の成果を活用し、さらなる強化を行うとともに、新たな対策を実施することで、気候変動に対応する漁業構造へと改善する必要がある。そこで、各漁業種類に応じた実証的な取組を行う。 ・ 漁船漁業(沿岸いか釣り漁業等) ・ 定置網漁業 ・ 養殖業	・ 佐賀県玄海地区の海域特性・経営規模に合った気候変動対応型の漁業構造とすることで、 玄海地区の漁業経営が改善され、持続可能な 経営スタイルが構築される。	令和 7 ~ 8 年度	A

機関名:有明水産振興センター

課題名	研究目的・目標	期待される成果	研究	総合
林煜石	划元百四,百保	別付される以来	期間	判定
さがノリ漁海況予測高	新しい海況予測手法を確立することで、環境変化	・ 赤潮発生リスクの低い漁場での種付け、赤潮		
度化事業	に応じた養殖管理を漁業者へ提案することで、さ	発生が予測される漁場からの避難、プランク		
	がノリ生産の安定化を図る。	トン活性状況に応じた施肥の実施判断など、	令和 6	
	・ プランクトンの活性把握による赤潮発生予測	気象変動に対応し安定したノリの生産を実現	\sim	A
	・ 潮流調査や衛星画像による赤潮の動態予測	できている。	8 年度	
	・ 新たな養殖管理手法の提案及び情報提供手法		, , , ,	
	の高度化			